



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 6 月 6 日 (金)

発行 館長 加 藤 智 一

ナガエツルノゲイトウ



米価高騰の裏で、今この話題が出てきたのには何か裏がある!! かどうか本当のところは分かりませんが、大変な問題であることに違いはありませんで、取り上げることにしました。

「ナガエツルノゲイトウ」は南アメリカ原産の多年草で、ナデシコ目ヒユ科に属します。アメリカをはじめ、世界各地に広がっていることから「地球上で最悪の侵略的植物」とも呼ばれるほど拡大力・再生力の強い植物です。日本には観賞用の水草として持ち込まれましたが、現在では外来種として各地に定着し、さまざまな問題を引き起こしています。「ナガエツルノゲイトウ」は河川や水路、水田などに侵入・定着します。国内では 1989 年に初めて見つか、2024 年 12 月現在で東北以南の 26 都府県で分布が確認されています。「ナガエツルノゲイトウ」は節を含

む茎や根からの栄養繁殖によって増殖、まん延し、水田に侵入すると競合による米の減収や収穫作業の阻害を引き起こします。さらに、「ナガエツルノゲイトウ」の茎は中空構造になっており、水に浮くことで流れ着いた場所で容易に繁殖します。代かき後の落水時などに再生能力を持つ節を含む茎や根の断片が水路に流れることで、周囲に拡散する懸念があり、収穫時にはコンバインの胴内に詰まり作業性の低下や故障の原因となる恐れもあります。また、「ナガエツルノゲイトウ」は、水中や暖地では葉や地上部の茎等も枯れずに越冬することがありますが、霜が降りる地域では、通常 12 月以降に地上部が枯死し、主に地下茎や根の状態越冬します。報道によれば、すでに繁殖が確認されている休耕田などでは、急に稲作を復活させようにも難しい側面があるとか。現在発生が確認されていない県でも、注意深く見守る必要があります。

「ナガエツルノゲイトウ」の見分け方ですが、葉は節から 1 対ずつ付き、先端がややとがっています。また、茎は中空で、節には短い毛が生え、表面は滑らかです。花は白く小さな球状で、葉のわきから 1～4 センチの花柄が伸びて咲きます。似た植物にはツルノゲイトウやアメリカタカサブロウ、タカサブロウ、スベリヒユやシロツメクサなどがありますが、葉や花の形、花柄の有無や色合い、茎の質感などで区別可能です。今は便利になったもので、「ナガエツルノゲイトウかな?」と思った植物がある場合は、スマホのアプリを使って調べてみるのも良いでしょう。

「ナガエツルノゲイトウ」の駆除では、早期発見・早期駆除がまず大事!! 繁茂した「ナガエツルノゲイトウ」を駆除するには大変な労力とお金がかかりますが、成長初期や小規模群落であれば比較的容易に駆除が可能だそうです。いずれにせよ、早期発見・早期駆除が肝要かと思います。

ドコモ絵文字が消える。日本発祥の文化がまた一つ・・・力負けでしょうか・・・。

絵文字は(株)NTT ドコモの携帯電話端末対応のインターネット接続サービス、i モードの開発がきっかけで 1999 年に誕生しました。今では世界中の人々のコミュニケーションに欠かせないものとなりましたが、互換性の問題等から 2025 年 6 月以降、順次提供終了となります。なんか寂しい。今後は、Google や Samsung が提供する標準絵文字を利用することになります。

琉球列島



小笠原諸島

(出典: 「侵入生物データベース」 国立環境研究所)